

市民および利用者アンケート 結果概要

目次

1	アンケートの種類と回収率	1
1.1.	アンケートの種類	1
1.2.	回収率	2
2	調査結果の概要	3
2.1.	交通手段について（市民アンケート結果より）	3
（1）	普段よく利用する交通手段	3
（2）	運転免許の保有	4
（3）	免許自主返納の意向	5
2.2.	主な外出目的と交通手段について	6
（1）	主な外出の目的と交通手段	6
（2）	主な買物先と交通手段	7
（3）	主な通院先と交通手段	9
（4）	交通空白地帯居住者の意見	11
2.3.	市民バスの利用実態（市民バス利用者アンケート結果より）	12
（1）	主な利用目的	12
（2）	主な行き先	12
（3）	利用の頻度	13
（4）	満足度	14
2.4.	路線バスの利用実態（路線バス利用者アンケート結果より）	16
（1）	路線バス利用者の居住地	16
（2）	主な利用目的	16
（3）	主な行き先	17
（4）	利用の頻度	17
（5）	満足度	18
2.5.	ふれあいタクシーみらさかの利用実態（ふれあいタクシーみらさか利用者アンケート結果より）	19
（1）	主な利用目的	19
（2）	主な行き先	19
（3）	利用の頻度	20
（4）	料金支払い減免者の料金負担意向	20
（5）	満足度	21
2.6.	市民タクシーの利用実態（市民タクシー利用者アンケート結果より）	22
（1）	主な利用目的	22
（2）	主な行き先	22
（3）	利用の頻度	22
2.7.	公共交通の情報確認の方法（利用者アンケート調査結果より）	23
（1）	路線バス利用者	23
（2）	市民バス，ふれあいタクシーみらさか（デマンド型バス）利用者	23
2.8.	公共交通整備に対する意向	24
（1）	市民の意向（市民アンケート調査結果より）	24
（2）	市民バス利用者の意向（市民バス利用者アンケート調査結果より）	25
（3）	路線バス利用者の意向（路線バス利用者アンケート調査結果より）	26

1 アンケートの種類と回収率

1.1. アンケートの種類

本事業では、以下の5種類のアンケートを実施した。

		実施要領	配布部数
市民アンケート		(配布回収方法) 郵送配布・郵送回収 (調査対象) 15歳以上 本市の世帯数は約23,900であり、 4世帯に1世帯の割合で配布	旧市 : 1778世帯 君田町 : 380世帯 布野町 : 376世帯 作木町 : 376世帯 吉舎町 : 980世帯 三良坂町 : 750世帯 三和町 : 734世帯 甲奴町 : 626世帯 合計 : 6,000世帯
利用者アンケート	市民バス	(配布方法) 支所職員がバスに乗り、手渡し配布。 ただし作木町線利用者については、全て ヒアリング形式で調査を実施	君田町線 : 40部 布野町線 : 45部 作木町線 : 44部 吉舎町線 : 30部 三和町線 : 55部 甲奴町線 : 55部 合計 : 269部
	路線バス	(配布方法) バス停で利用者に手渡しで配布。	368部
	ふれあい タクシー みらさか	(配布方法) 広域商工会から利用者に配布。	153部
	市民タクシー	(配布方法) 市職員から利用者に配布。	14部 ヒアリングの補足調査

1.2. 回収率

アンケート調査票の回収率は、次のとおり。

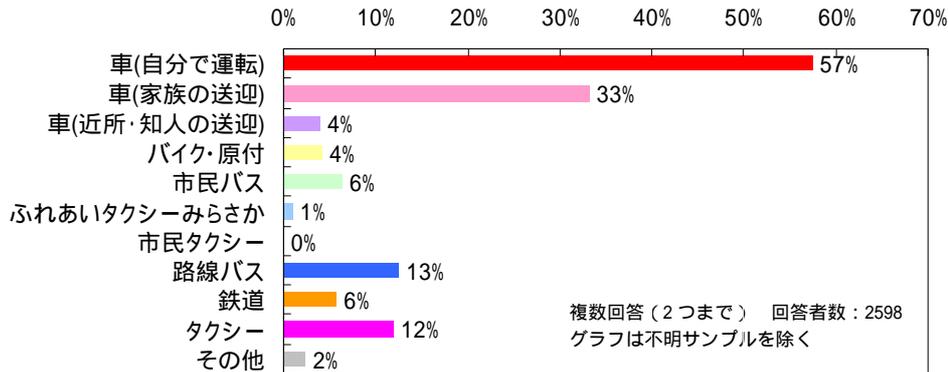
		配布部数	回収部数	回収率
市民 アンケート	旧市	1,778	735	41%
	君田町	380	167	44%
	布野町	376	182	48%
	作木町	376	166	44%
	吉舎町	980	447	46%
	三良坂町	750	317	42%
	三和町	734	330	45%
	甲奴町	626	291	46%
	合計	6,000	2,635	44%
市民バス 利用者 アンケート	君田町	40	17	43%
	布野町	45	38	84%
	作木町	46	46	100%
	吉舎町	30	28	93%
	三和町	55	37	67%
	甲奴町	55	25	45%
	合計	269	191	71%
路線バス 利用者アンケート		368	82	22%
ふれあいタクシーみらさか 利用者アンケート		153	86	56%
市民タクシー 利用者アンケート		14	10	71%

2 調査結果の概要

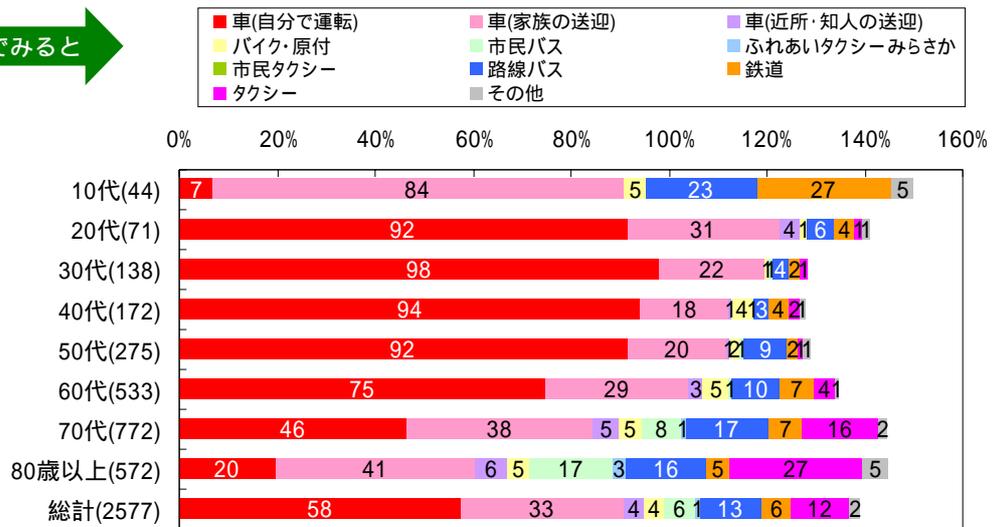
2.1. 交通手段について(市民アンケート結果より)

(1) 普段よく利用する交通手段

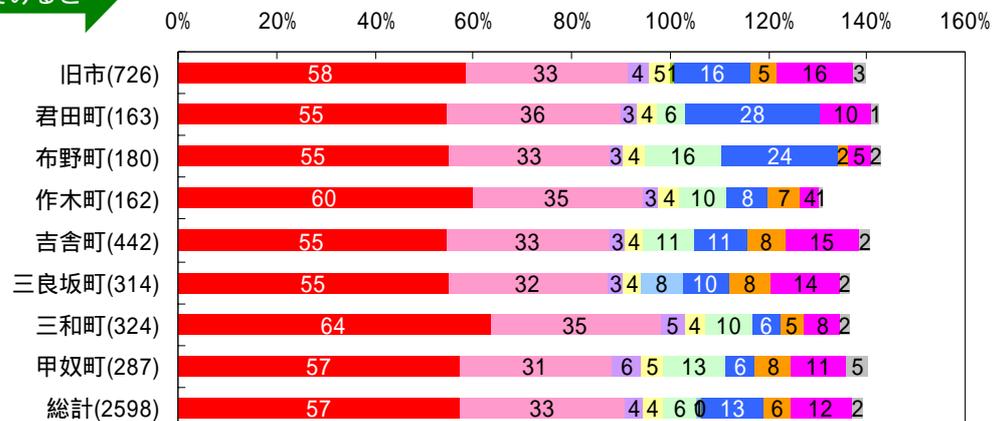
- よく利用する交通手段は、「車(自分で運転)」が最も多く約6割,「車(家族の送迎)」と合計すると約9割が、普段の移動で車を利用しています。
- 一方、高齢者ではタクシーを利用される人も多く、80代以上では約3割を占めます。



年齢別でみると



地域別でみると

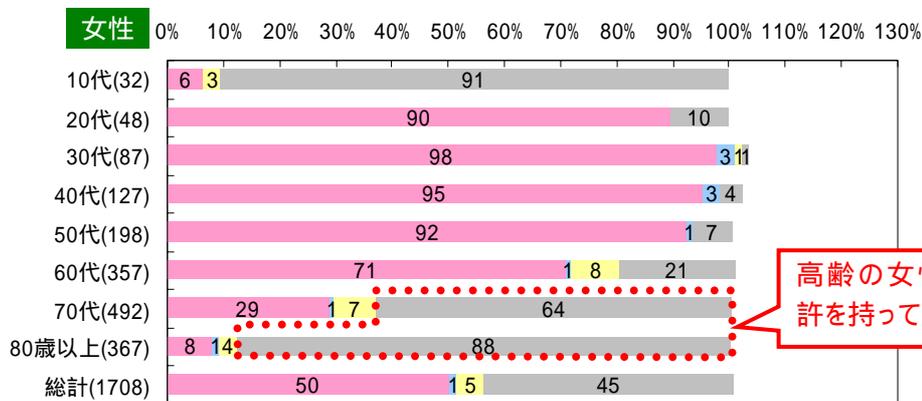
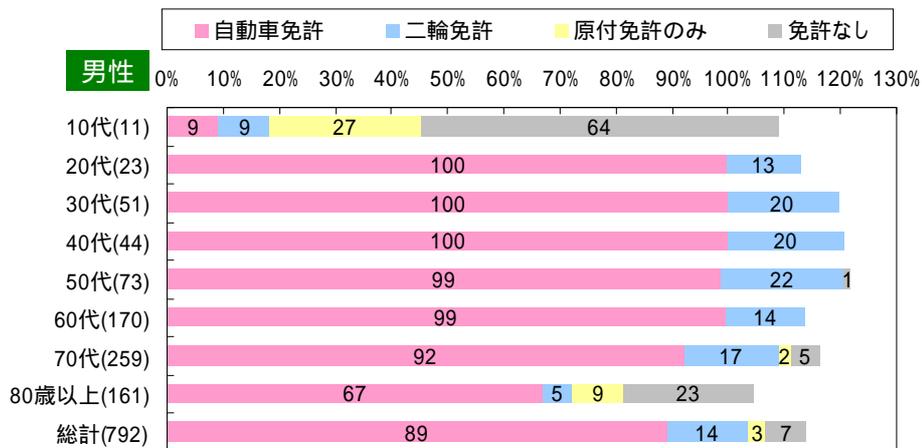


複数回答(2つまで)

()内は回答者数, グラフは不明サンプルを除く

(2) 運転免許の保有

• 女性では、70代の約6割、80代以上の約9割が運転免許を持っていません。

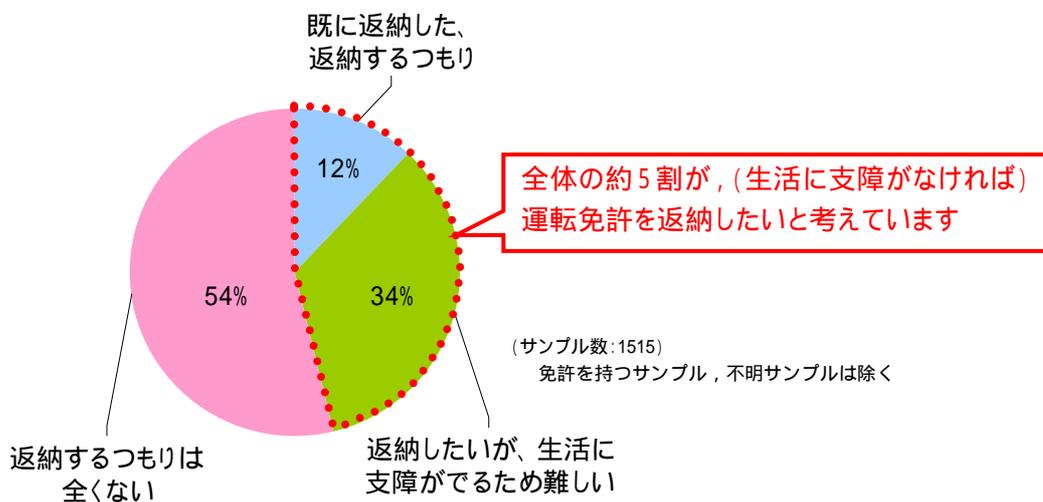


高齢の女性は、運転免許を持ってない人が多い

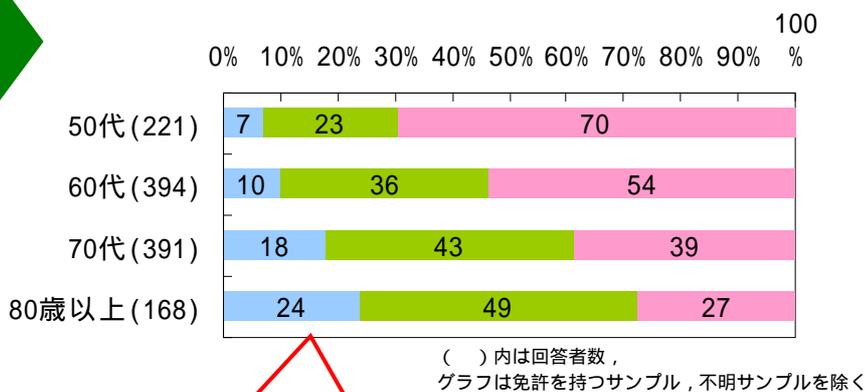
複数回答(あてはまるもの全て)
()内は回答者数, グラフは不明サンプルを除く

(3) 免許自主返納の意向

- 運転免許返納について、「既に返納した，返納するつもり」が約1割，「返納したいが，生活に支障がでるため難しい」が約3割を占め，合計して約5割の回答者が，免許を返納する意向を持っています。



■ 既に返納した、返納するつもり ■ 返納したいが、生活に支障がでるため難しい ■ 返納するつもりは全くない

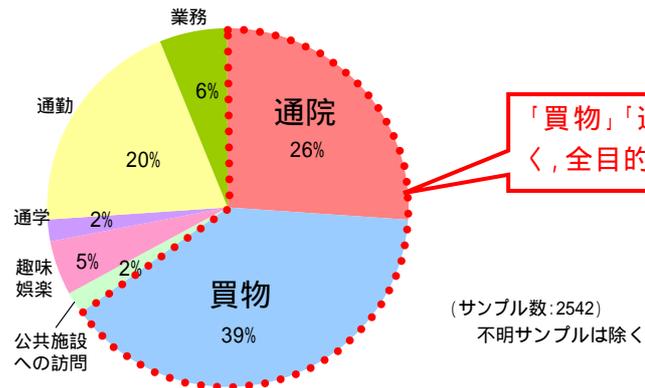


70歳以上の高齢者では，約6～7割が運転免許を返納したいと回答しています

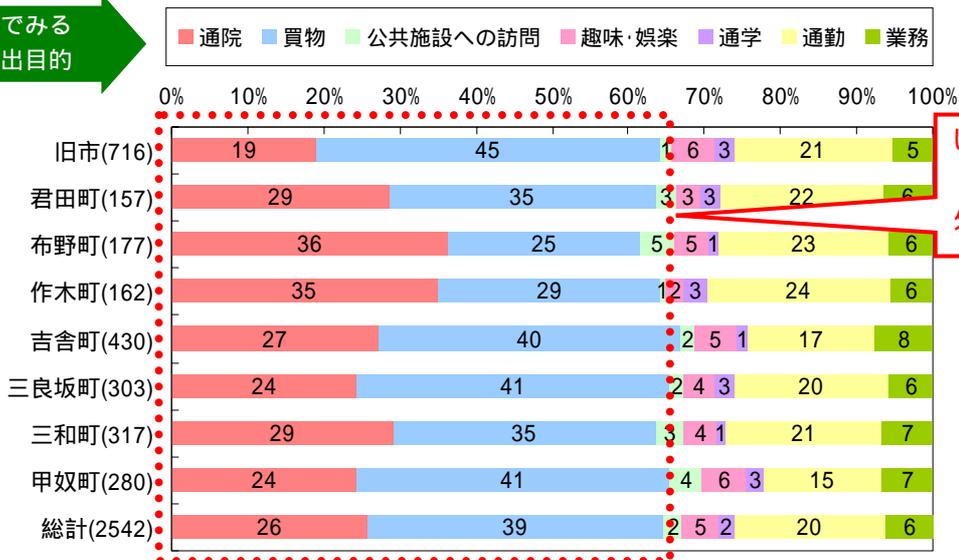
2.2. 主な外出目的と交通手段について

(1) 主な外出の目的と交通手段

- 外出回数が多い目的は「買物」と「通院」が多く、両者で約7割を占めます。
- 地域別で見ると、いずれの地域でも「買物」と「通院」が多い傾向は変わりませんが、布野町と作木町居住者の回答のみが「通院」が「買物」を上回っています。
- また交通手段をみると、買物時の交通手段では「車（自分で運転）」、「車（家族の送迎）」の回答が多く、両者で約8割を占めています。一方、通院では、買物に比べると車利用の割合が低く、市民バスや路線バス、タクシーの割合が高くなっています。

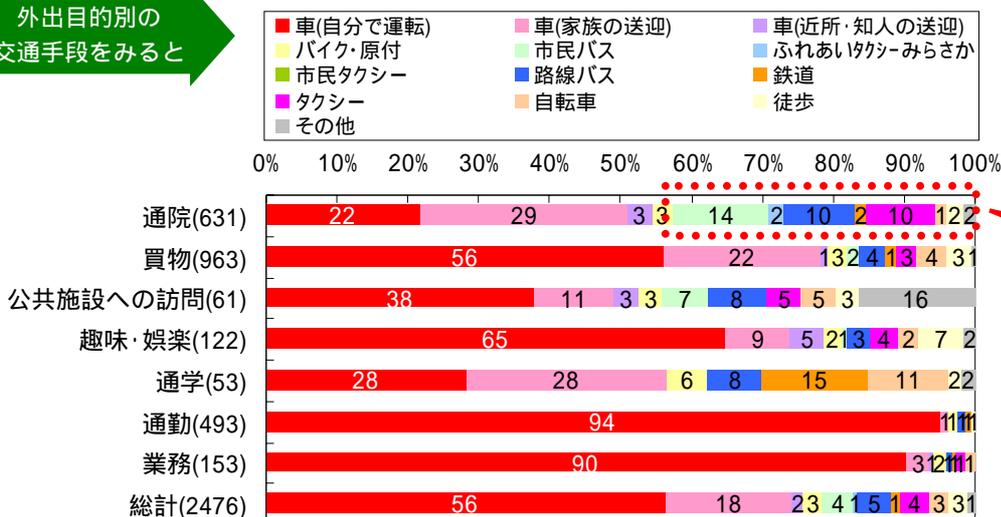


地域別でみる 主な外出目的



いずれの地域でも
「買物」「通院」の
外出が多い

外出目的別の 交通手段をみると

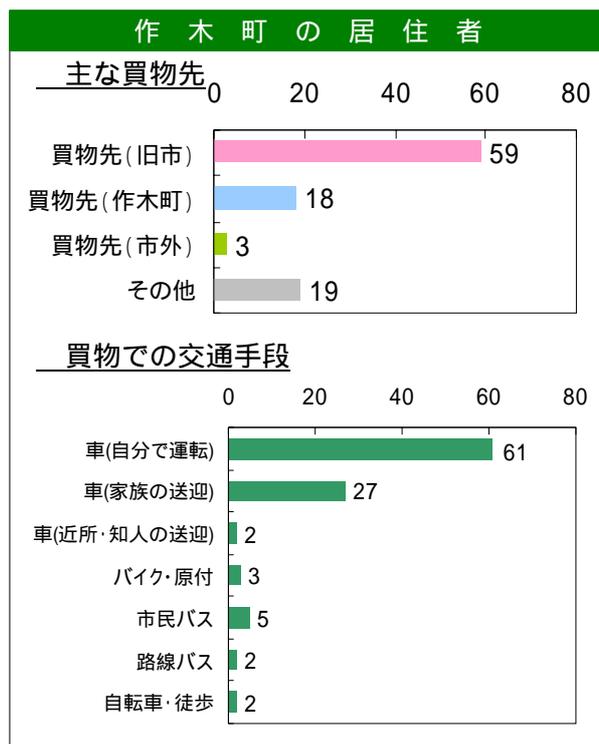
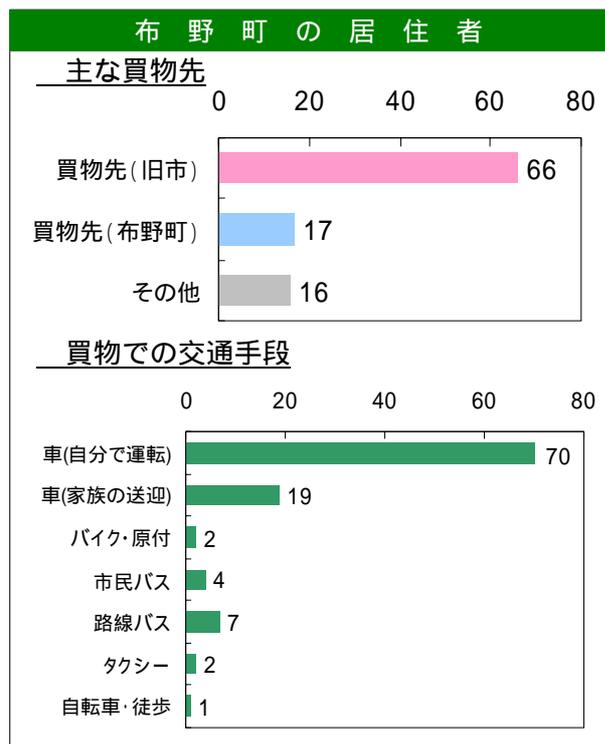
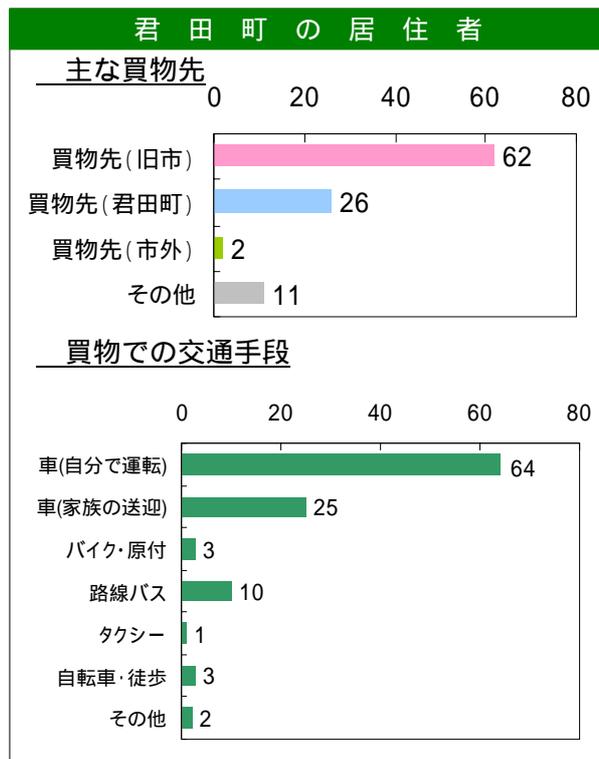
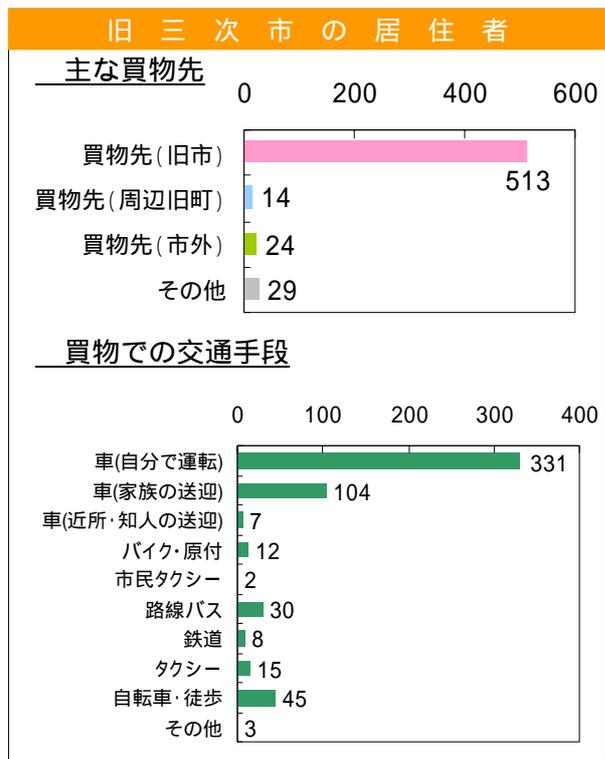


「通院」での交通手段は、
バスやタクシーなどの
公共交通が比較的多い

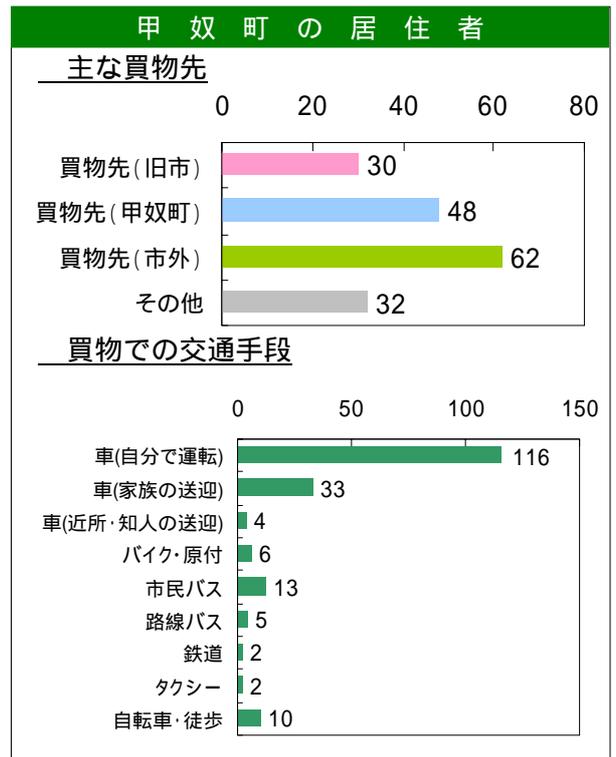
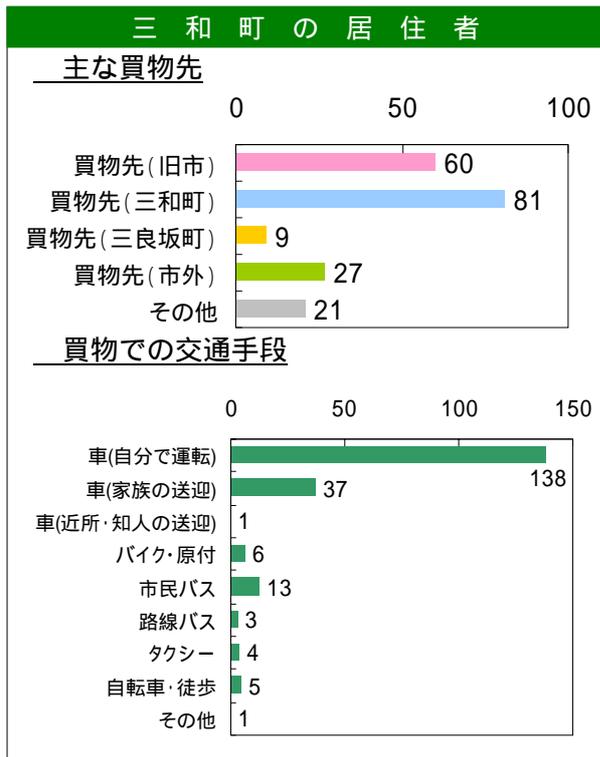
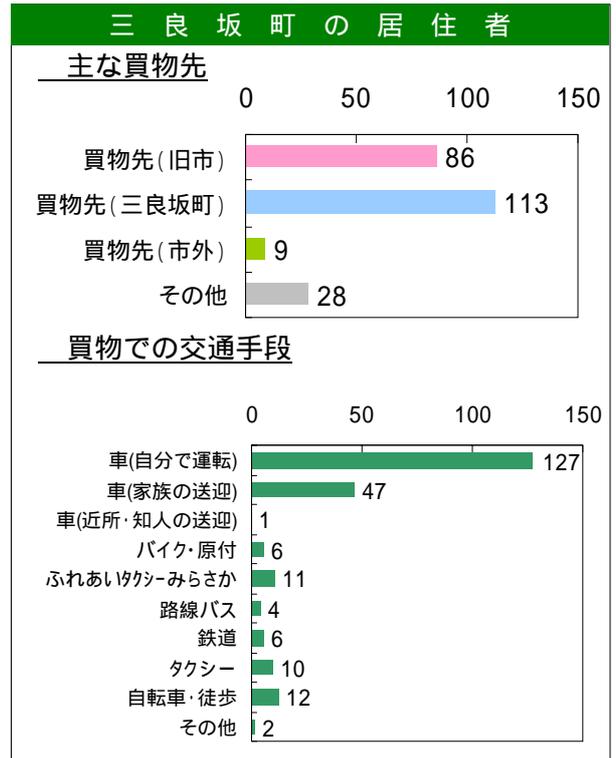
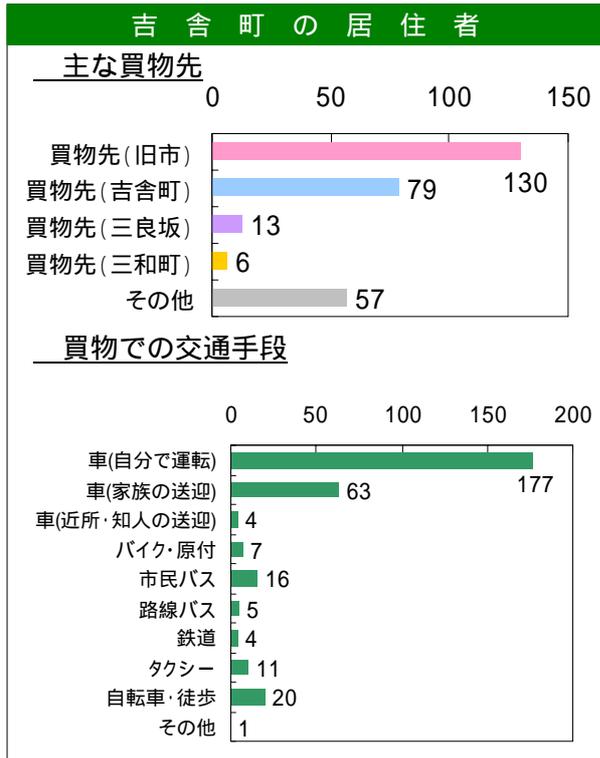
()内は回答者数
グラフは不明サンプルを除く

(2) 主な買物先と交通手段

- 「買物」目的での主な行き先としては、大規模小売店などが立地する旧三次市内を挙げる人が多くなっています。
- また周辺7町の居住者においても、旧三次市内で買物する割合は比較的高く、市内全域から中心市街地方面への移動ニーズが高いことが分かります。ただし甲奴町居住者は、三次市外で買物する人が多くなっています。
- 一方、交通手段では、どの地域においても、「車(自分で運転)」、「車(家族の送迎)」を利用して買物に出かける割合が高くなっています。



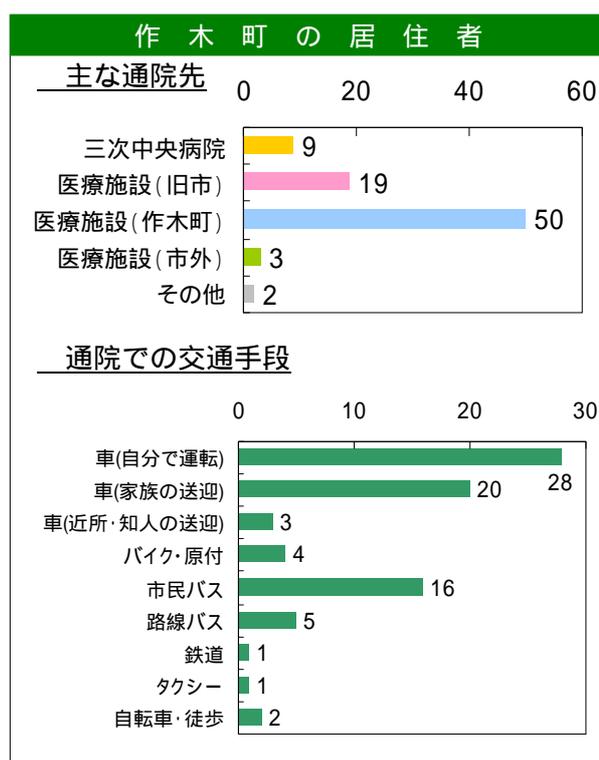
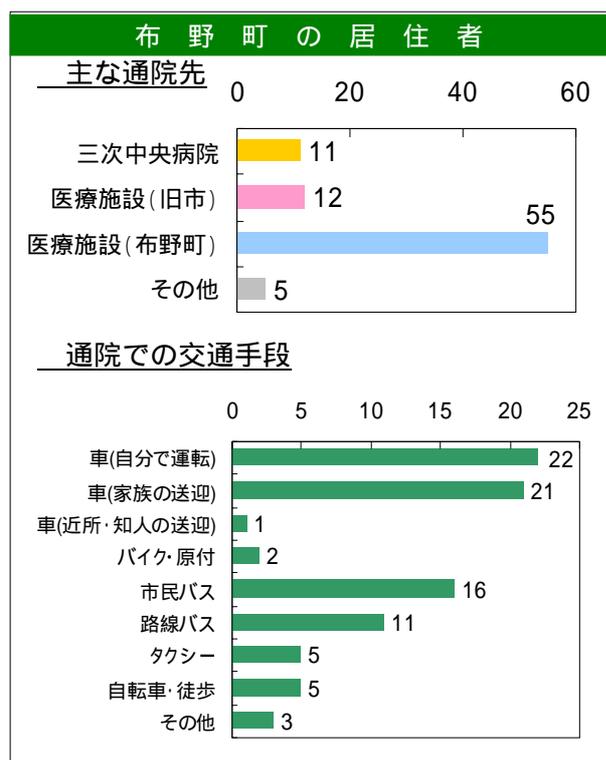
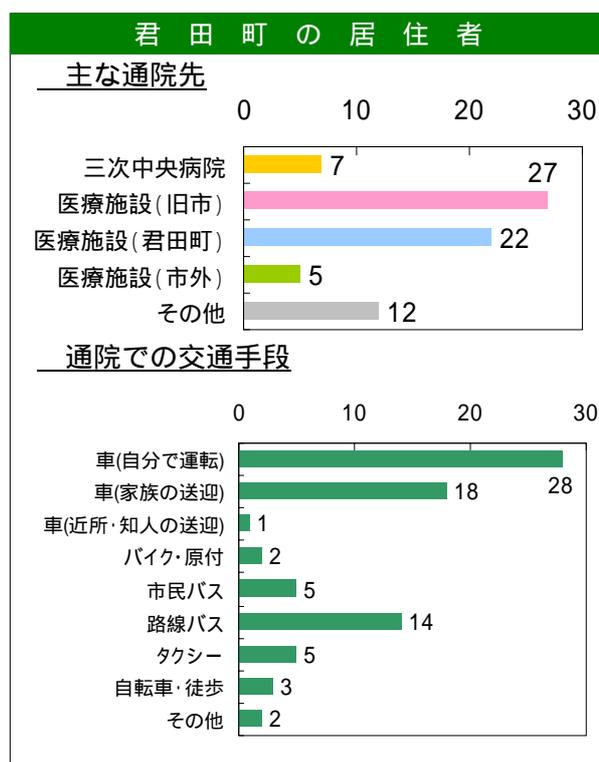
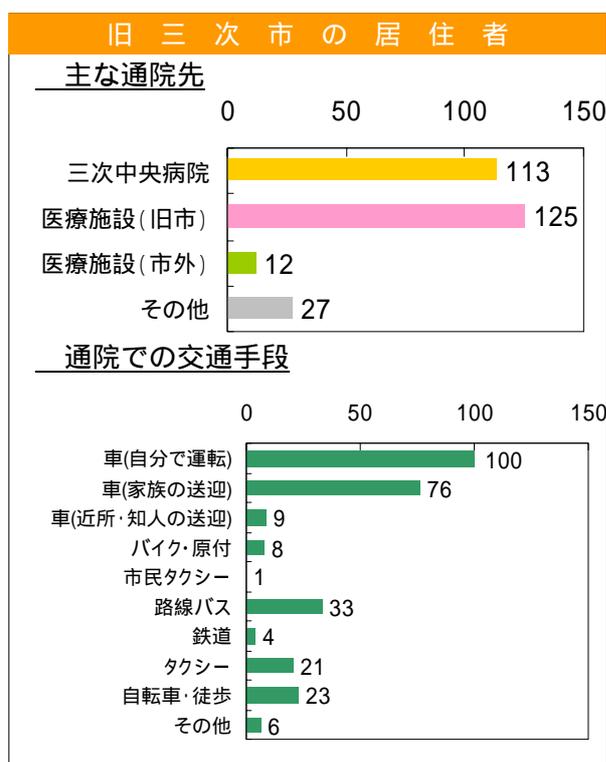
値は回答件数
行き先は複数回答
グラフは、不明サンプルを除く



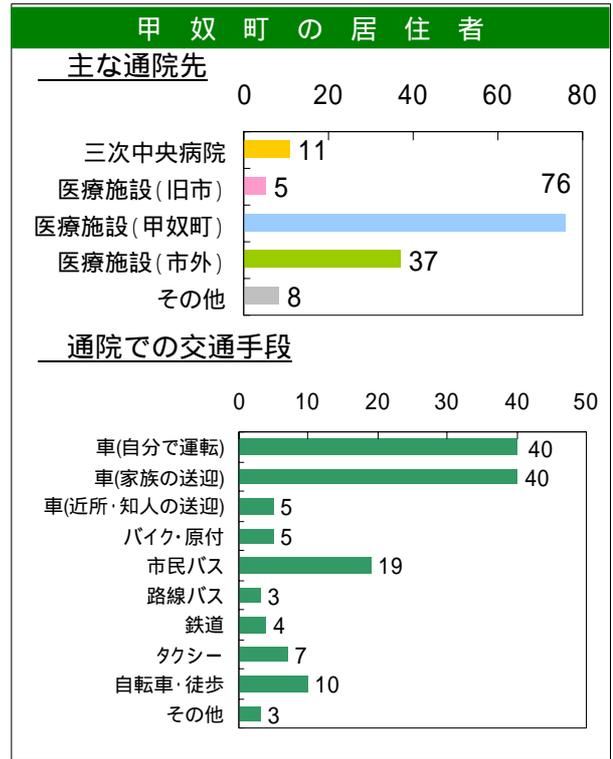
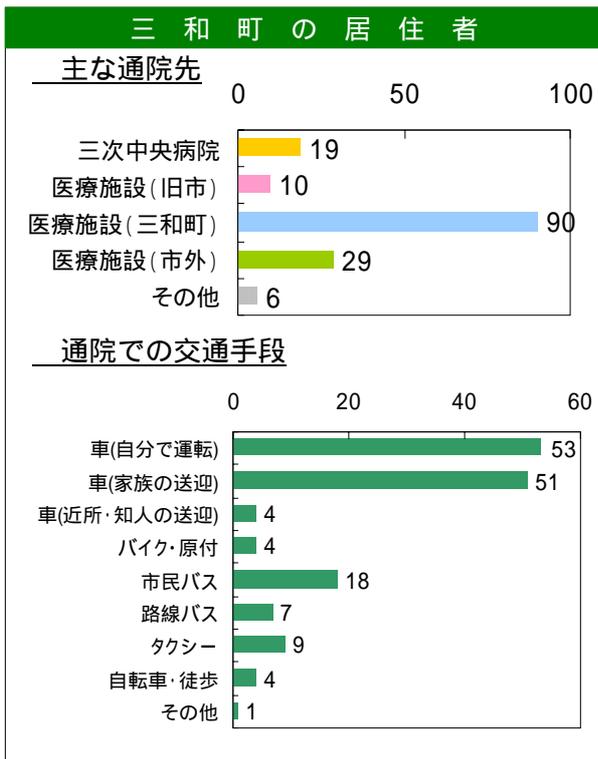
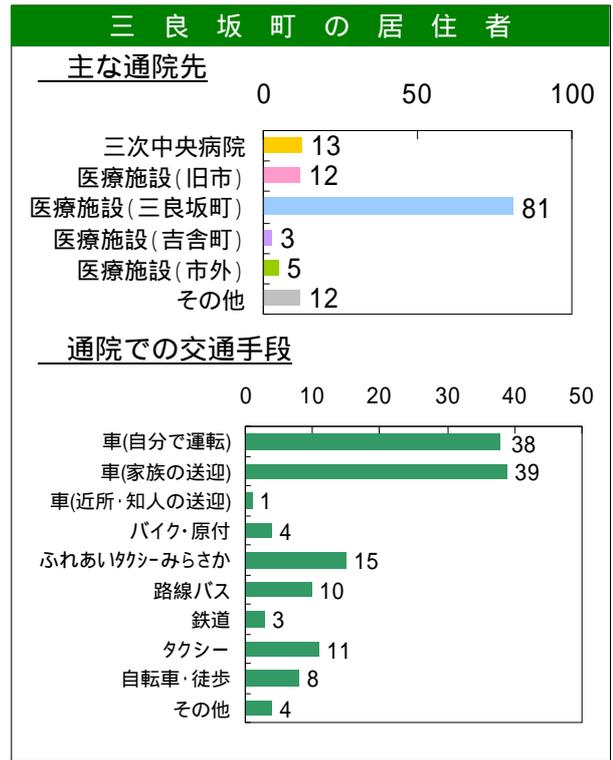
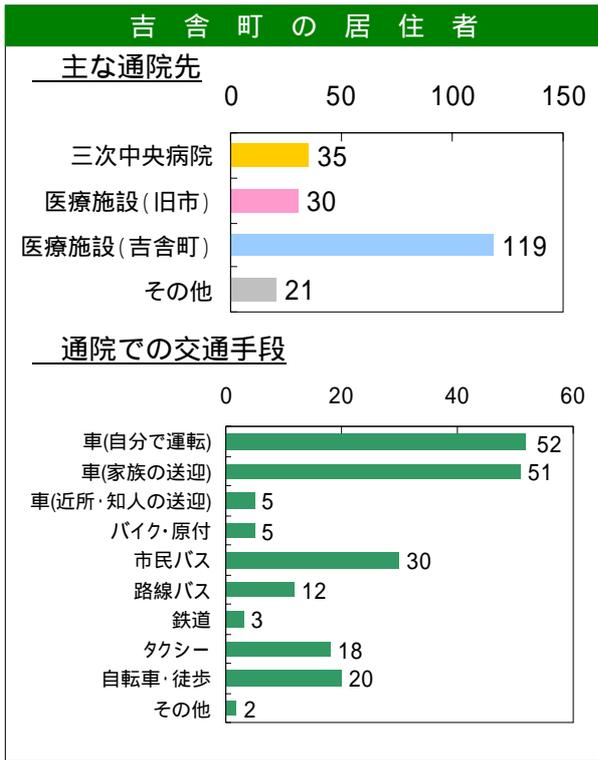
値は回答件数
 行き先は複数回答
 グラフは、不明サンプルを除く

(3) 主な通院先と交通手段

- 主な「通院」先では、居住地近くの医療施設を挙げる人が多くなっています。ただし、君田町や作木町では、旧三次市を挙げる人が比較的多くみられます。また三次中央病院は、旧市居住者だけでなく、周辺7町からも通院されています。
- 一方、交通手段では「車（自分で運転）」、「車（家族の送迎）」が多いですが、特に周辺7町では公共交通（市民バスや路線バスなど）が通院を支えています。



値は回答件数
行き先は複数回答
グラフは、不明サンプルを除く



値は回答件数
 行き先は複数回答
 グラフは、不明サンプルを除く

(4) 交通空白地帯居住者の意見

- 交通空白地帯に居住する方の自由回答では、「市民タクシー」「乗合タクシー」制度の導入を求める声が非常に多くなっています。
- 中心市街地周辺地域の方では、「ウェーブ号のルートを変更して利用できるようにしてほしい」という意見もありました。

君田町泉吉田

お年寄りの人はバス停まで遠い人は利用したいが、そこまで行くのにつらいとよく聞きます。合併前は小さい車で小道を通っていただいていたので、利用する人がおられました。年々と高齢化が進んでいます。今後は通院とか買物とか利用する人は予約してみるのも一つの手段と思います。ワゴン車ぐらいの大きさの乗合タクシーが良い。(50代 女性)

向江田町

過疎地域の山奥の人たちの事を考えた交通介護タクシーのような車を多くし利用が広く出来る交通対策なら良い。(60代 男性)

十日市南

三次市は山間部で高齢化しており、公共交通は必要なので、小型の車を運行する。地域の中で、運転のできる人の力を借りてでも通院、買物ができるようにと思います。(70代 女性)

十日市中

粟屋を回るバスルートを三次ウェーブ号に入れてください。(60代 女性)

和知町

もう少し田舎の方も通ってほしい。田舎は車がないと無理。あちこち重たい荷物を持ってバスなどで移動できない。(20代 女性)

海渡町

旧三次市と合併前町村で市民バス・市民タクシー運行について不公平である。同じように旧三次市内へも手立てできるか。(80代以上 女性)

青河町

人口のある程度ある地域と少ない地域に分けて、何らかの手段を設定してほしい。予約制の乗り合いタクシーなど他県や地域にあるようなものなど。(70代 女性)
市民タクシー、ウェーブ号といっても青河の方にはなく、不便です。拡大してください。(80代以上 女性)

下志和地町

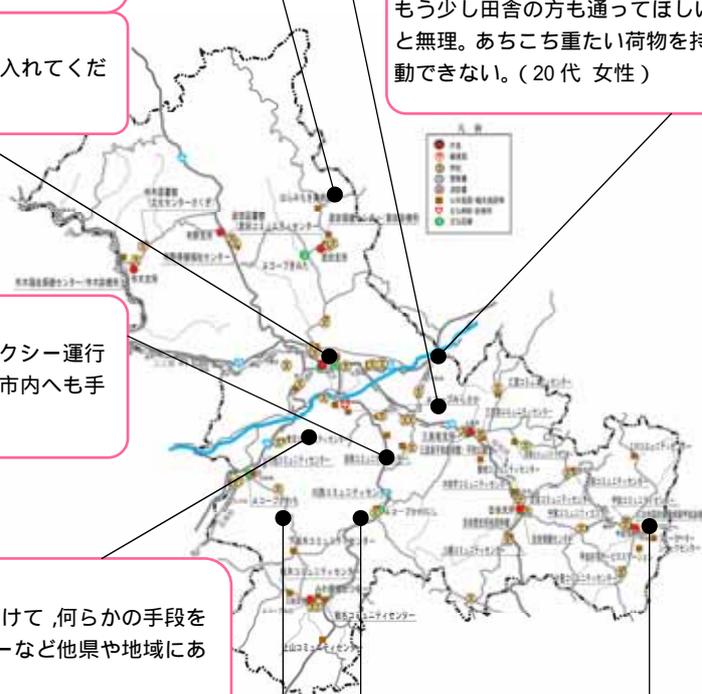
市民タクシーをもっと使いやすくしてほしい。(50代 女性)

三若町

三若の方にも三次ウェーブ号を運行してほしい。(60代 女性)

甲奴町本郷

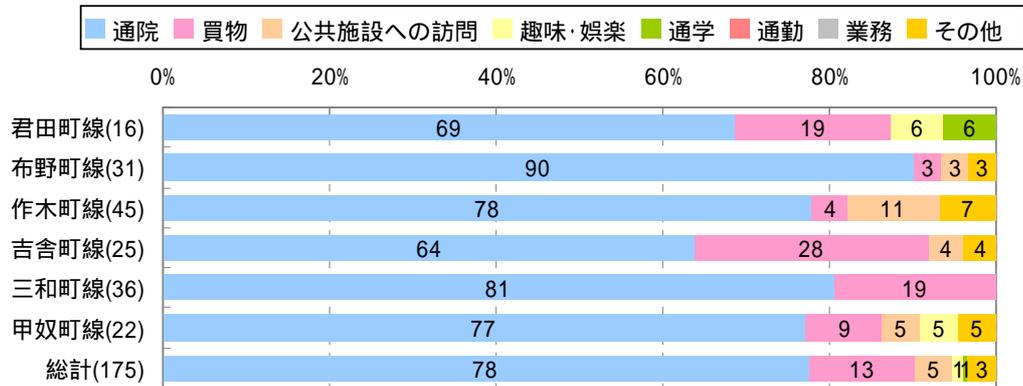
現在は主人の運転によって、通院と買物に出っていますが、主人がいつまで運転できるか、お先真っ暗です。以前、上下～甲山線のバスがありましたが、いつの間にか廃止になり、全く交通手段がありません。(70代 女性)



2.3. 市民バスの利用実態(市民バス利用者アンケート結果より)

(1) 主な利用目的

- 市民バスは「通院」目的で利用される割合が非常に高く、全体で約8割を占めています。
- 路線別で見ると、布野町線では特に「通院」利用が多く、また吉舎町線では比較的「買物」目的も多くなっています。

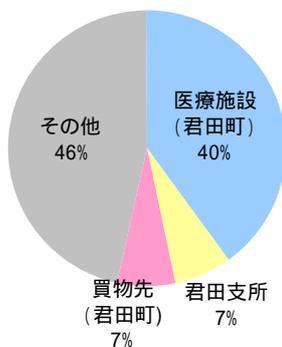


()内は回答者数，グラフは不明サンプルを除く

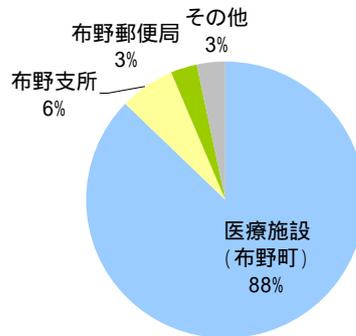
(2) 主な行き先

- どの地域も、町内の医療施設へ訪れる割合が非常に高くなっています。

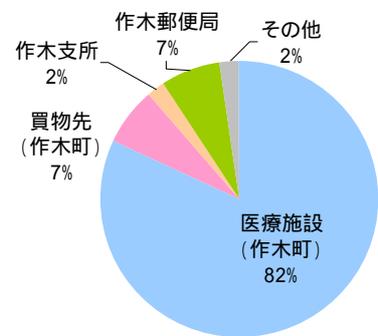
君田町線



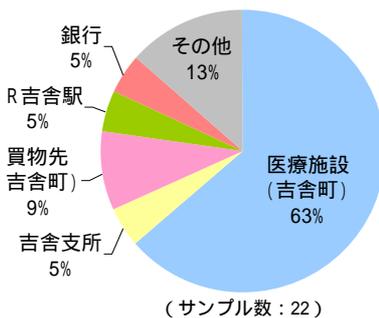
布野町線



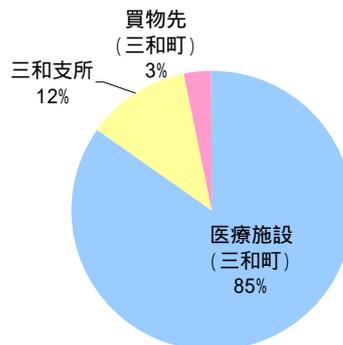
作木町線



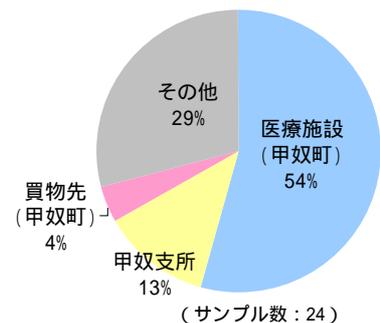
吉舎町線



三和町線

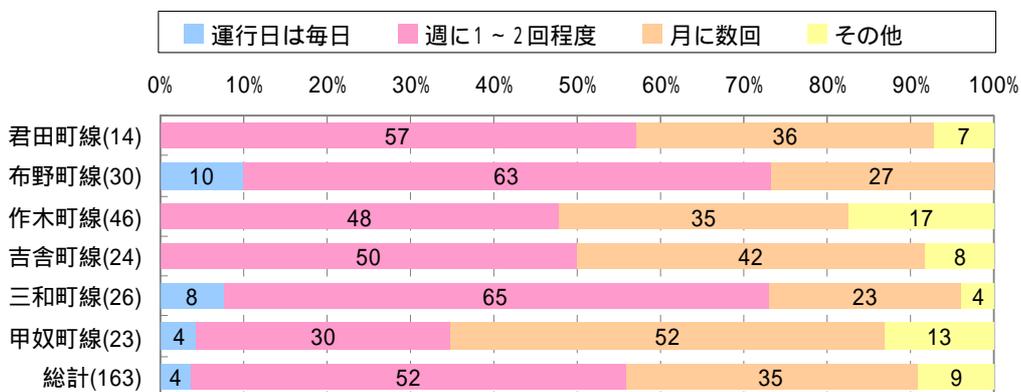


甲奴町線



(3) 利用の頻度

- 市民バスの利用頻度は「週に1～2回程度」利用される方が多くなっています。
- 路線別では、三和町、布野町の利用頻度が比較的高く、運行内容と利用ニーズが整合している状況がうかがえます。逆に甲奴町線は、他路線よりも利用頻度が低く、「月に数回」との回答が約5割を占めています。

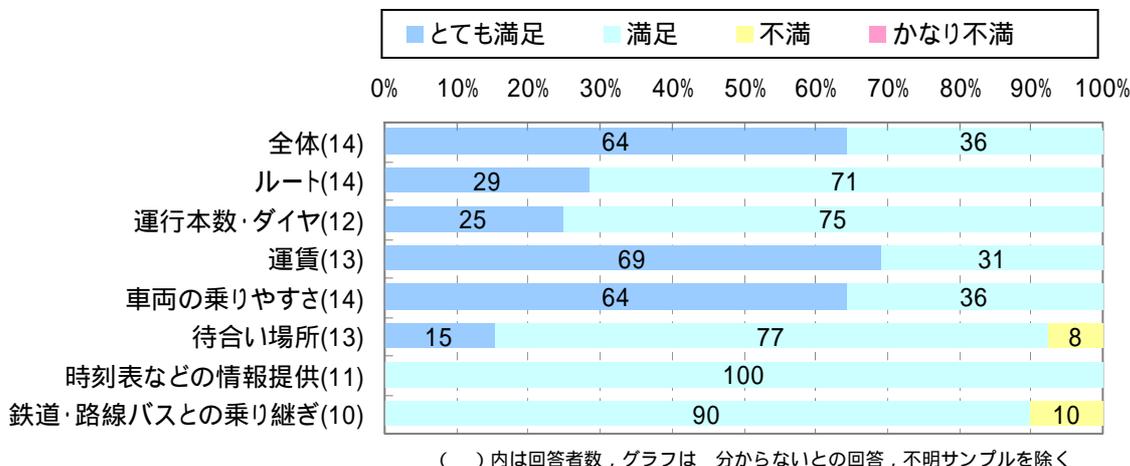


()内は回答者数、グラフは不明サンプルを除く

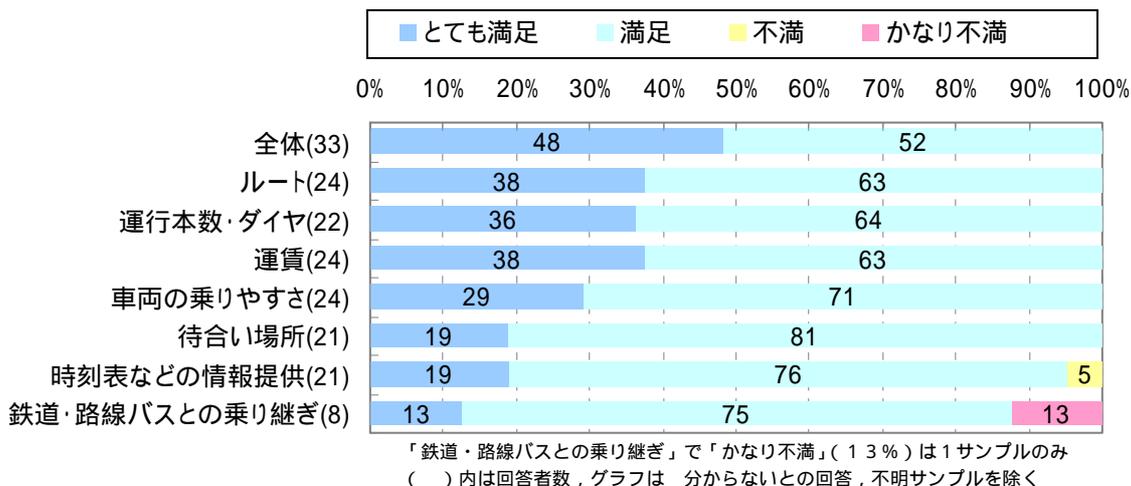
(4) 満足度

● 市民バス利用者の多くは、それぞれのバスに対して満足されています。ただし、市南側の3町で運行する市民バスでは、割合は低いものの不満に思う利用者も確認できます。

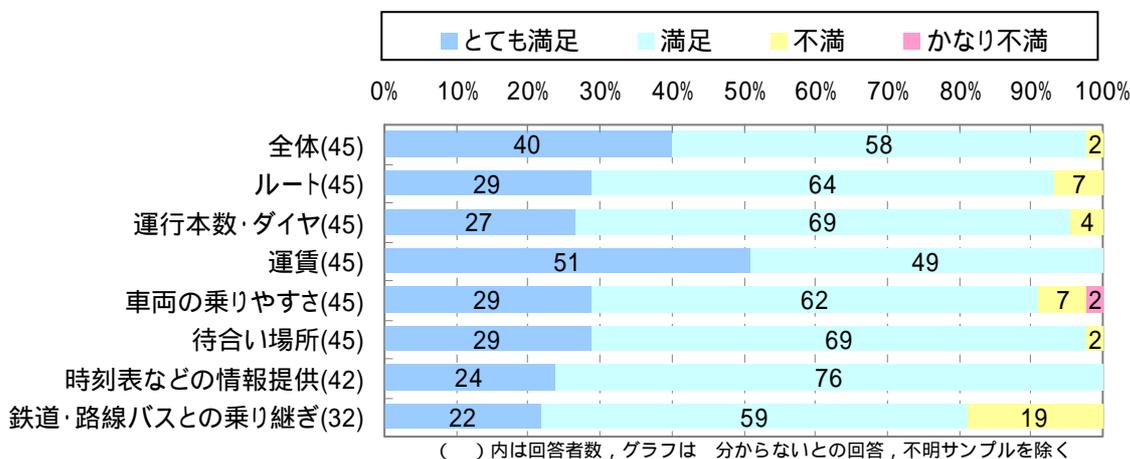
君田町線



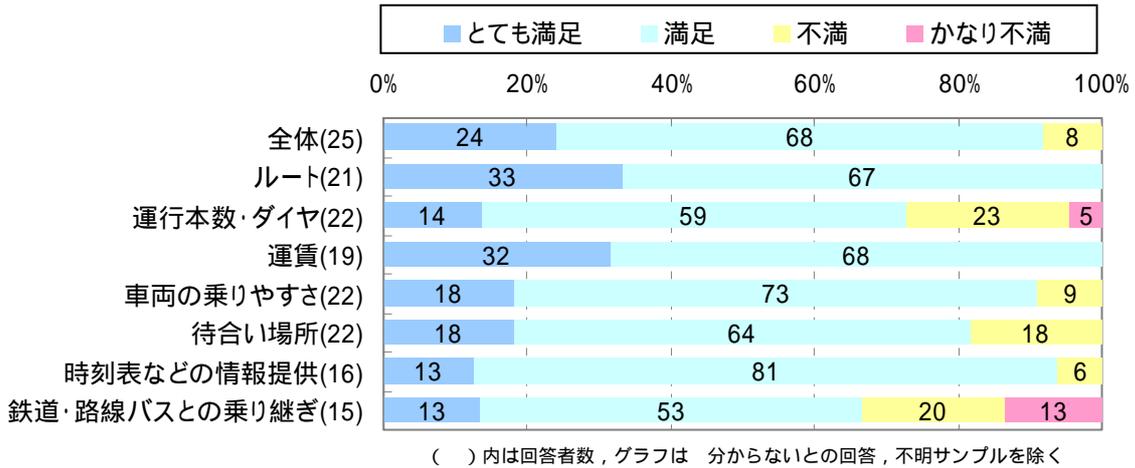
布野町線



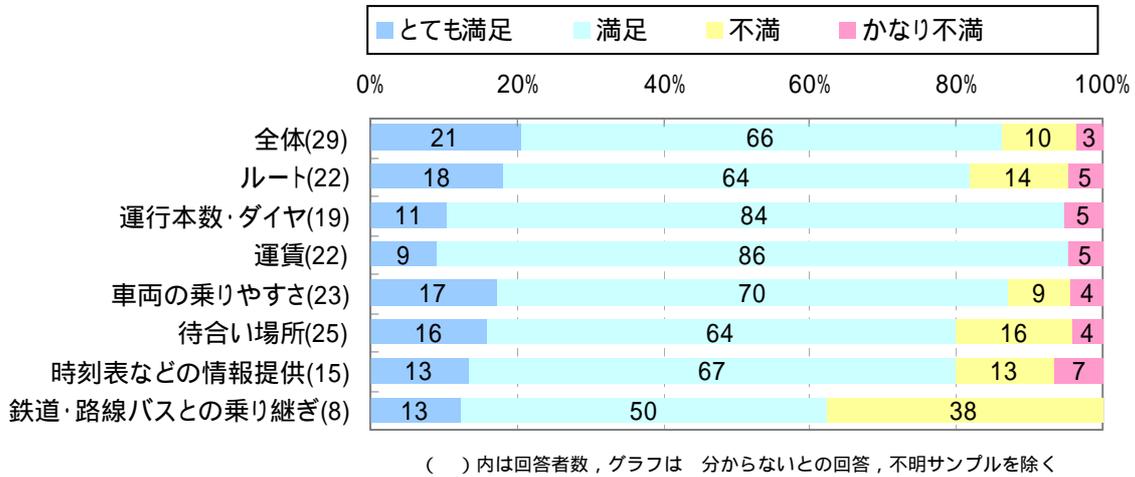
作木町線



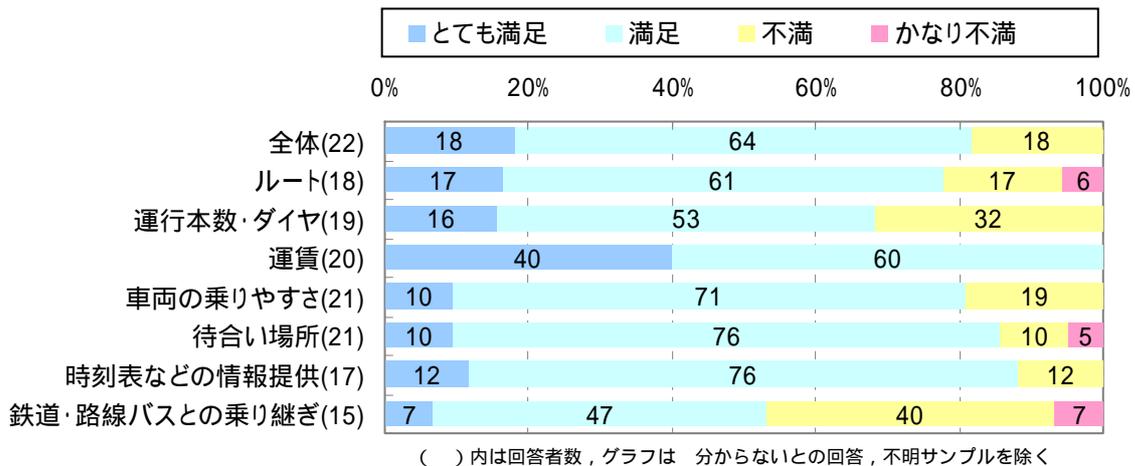
吉舎町線



三和町線



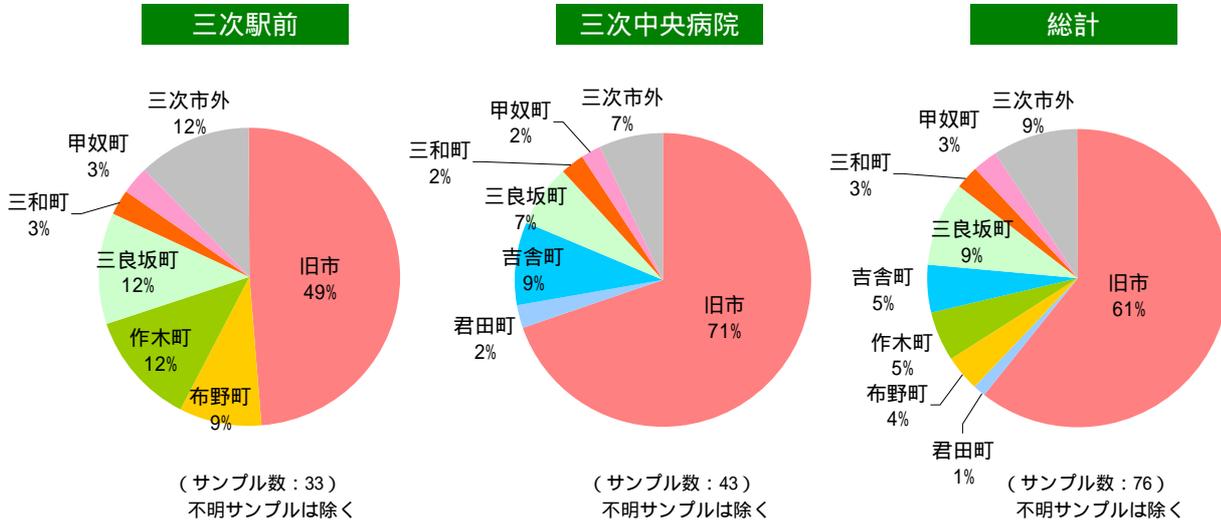
甲奴町線



2.4. 路線バスの利用実態 (路線バス利用者アンケート結果より)

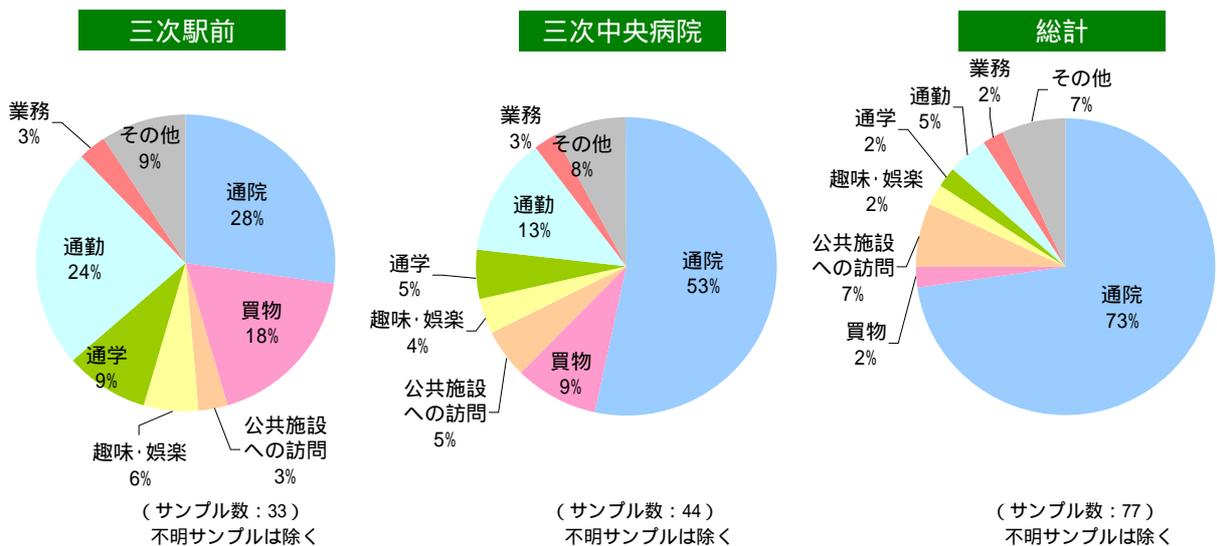
(1) 路線バス利用者の居住地

- 三次駅前と三次中央病院で乗降する路線バス利用者は、旧市居住者だけでなく、周辺旧町居住者の割合も高くなっています。



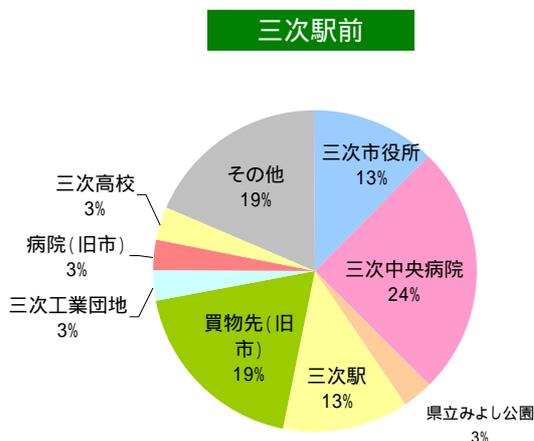
(2) 主な利用目的

- 三次駅前で乗降する利用者は、「通院」や「買物」の他にも、「通勤」や「通学」目的で利用される方も多くなっています。
- 三次中央病院で乗降する利用者は、「通院」が5割以上を占めています。

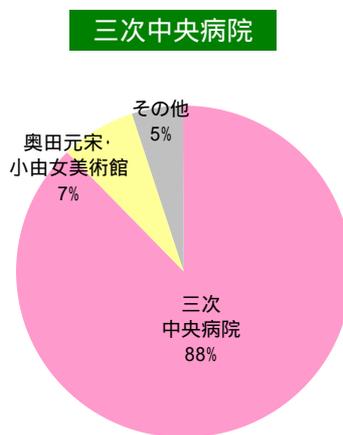


(3) 主な行き先

- 三次駅前で乗降する方は、市街地の公共施設や買物先、三次中央病院など様々な施設への移動に路線バスを利用されています。
- 三次中央病院で乗降する利用者は、三次中央病院が約9割を占めています。また、バス停から徒歩で奥田元宋・小由女美術館で行かれる方もいらっしゃいます。



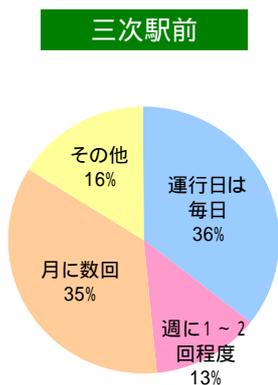
(サンプル数: 32)
不明サンプルは除く



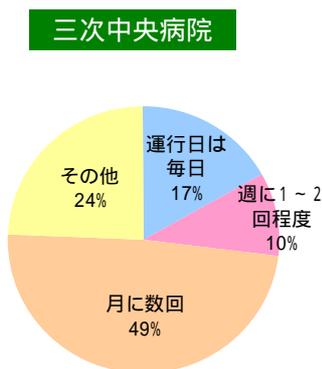
(サンプル数: 41)
不明サンプルは除く

(4) 利用の頻度

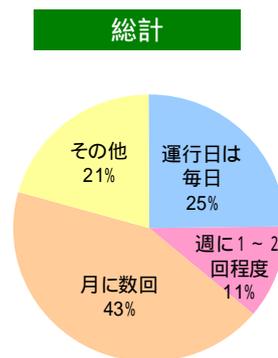
- 三次駅前バス停を利用される方は、「運行日は毎日」「月に数回」利用される方がともに約4割となっています。
- 三次中央病院では、「月に数回」路線バスを利用される方が約5割と締めています。



(サンプル数: 31)
不明サンプルは除く



(サンプル数: 41)
不明サンプルは除く

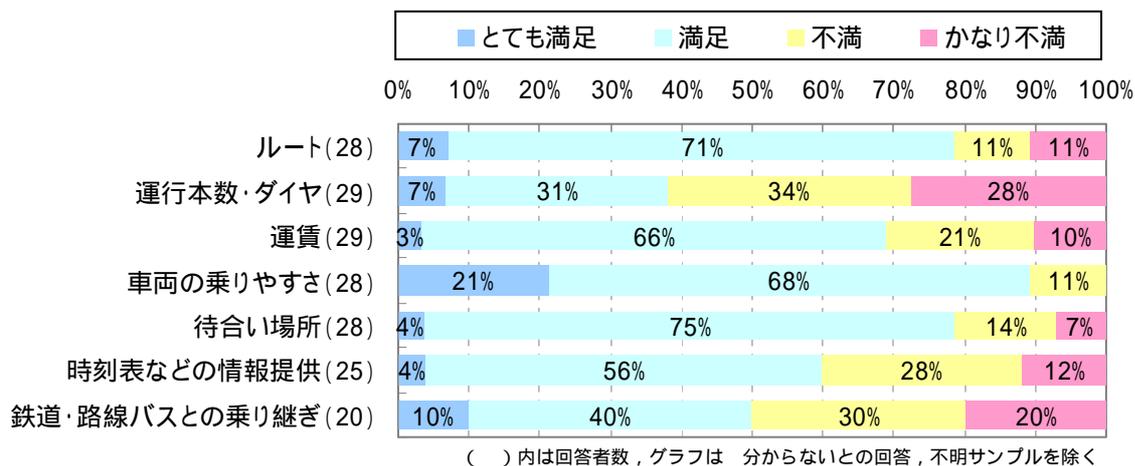


(サンプル数: 72)
不明サンプルは除く

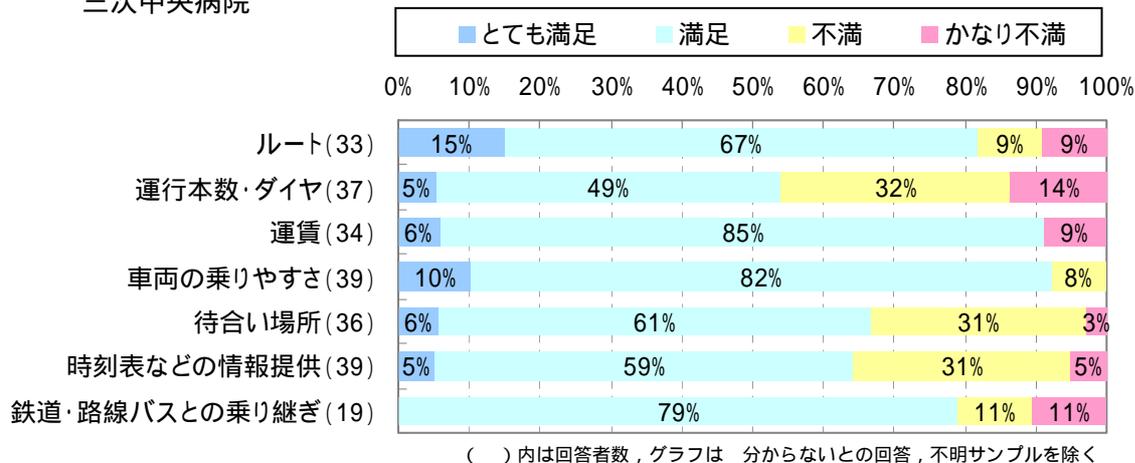
(5) 満足度

- 三次駅前バス停利用者は、「運行本数・ダイヤ」に対する満足度が低く、「不満」「かなり不満」を合計すると約6割を占めます。次いで不満割合が高い項目は「鉄道・路線バスとの乗り継ぎ」、次が「時刻表などの情報提供」です。
- 三次中央病院でも三次駅前バス停利用者と同様、「運行本数・ダイヤ」に対する満足度が低く、「不満」「かなり不満」を合計すると、約5割を占めています。

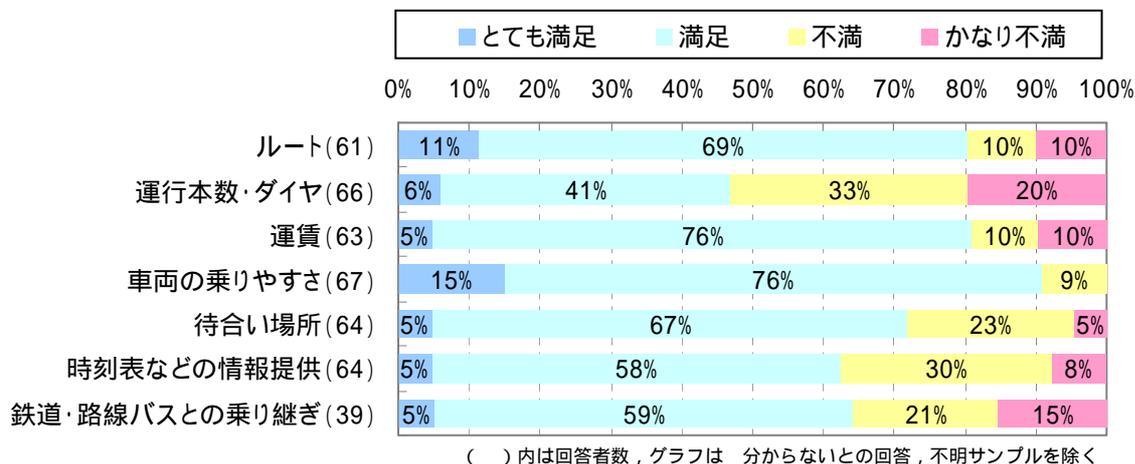
三次駅前



三次中央病院



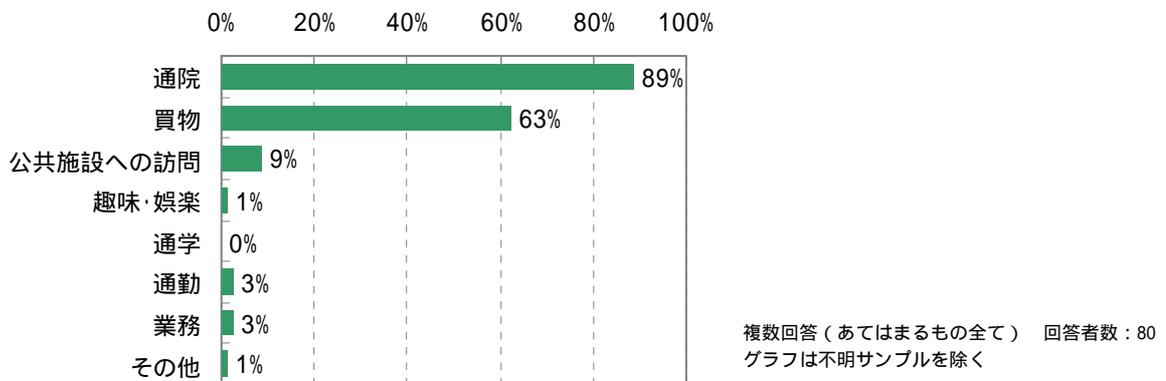
総計



2.5. ふれあいタクシーみらさかの利用実態 (ふれあいタクシーみらさか利用者アンケート結果より)

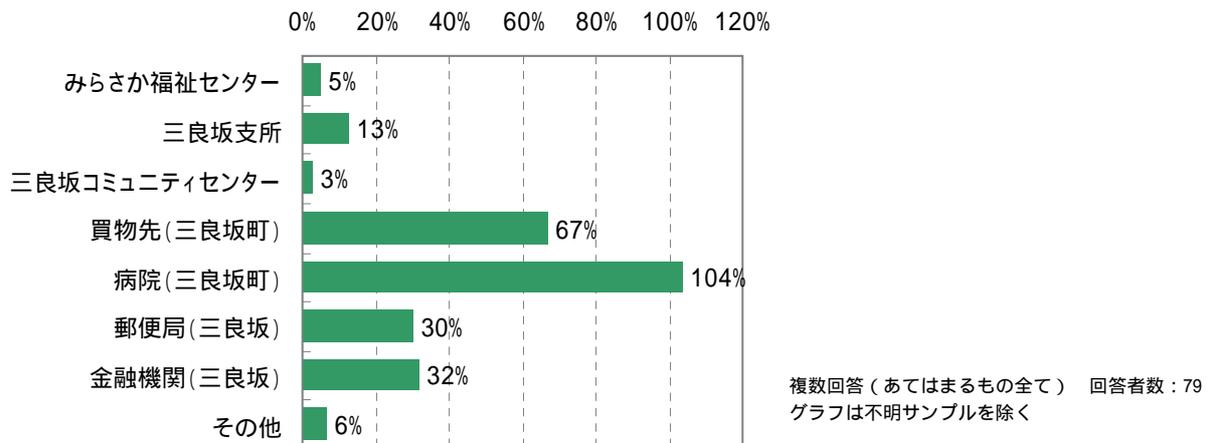
(1) 主な利用目的

- 「通院」「買物」目的で利用される割合が非常に高くなっています。



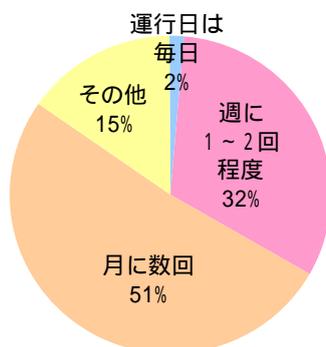
(2) 主な行き先

- 三良坂町内の病院，買物先の割合が非常に高くなっています。



(3) 利用の頻度

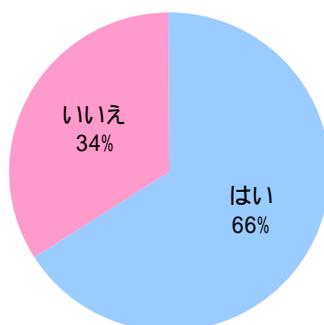
- 利用頻度は「月に数回」利用される方が多く、約5割を占めています。



(サンプル数: 66)
不明サンプルは除く

(4) 料金支払い減免者の料金負担意向

- 約7割の方が、利用するにあたって、料金をいくらか負担しても良いと思われています。

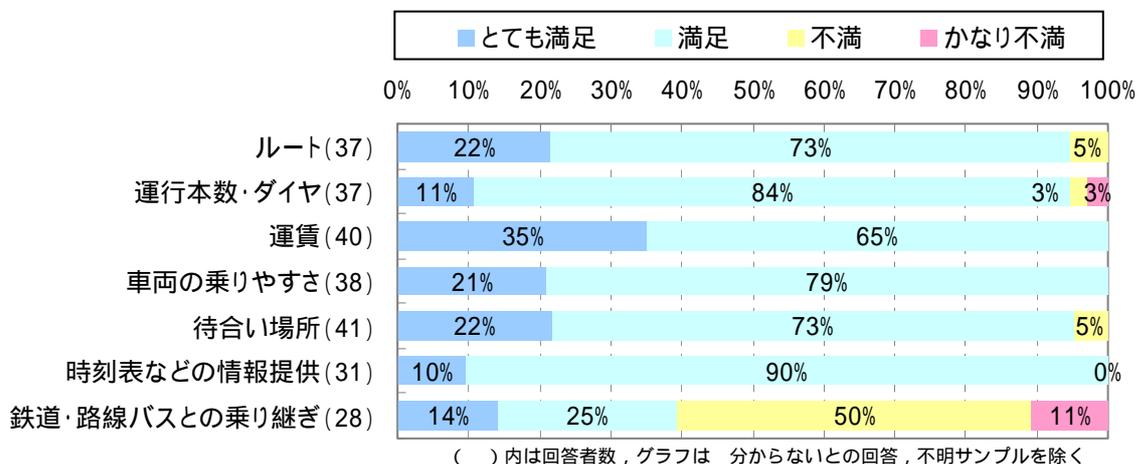


(サンプル数: 35)
不明サンプルは除く

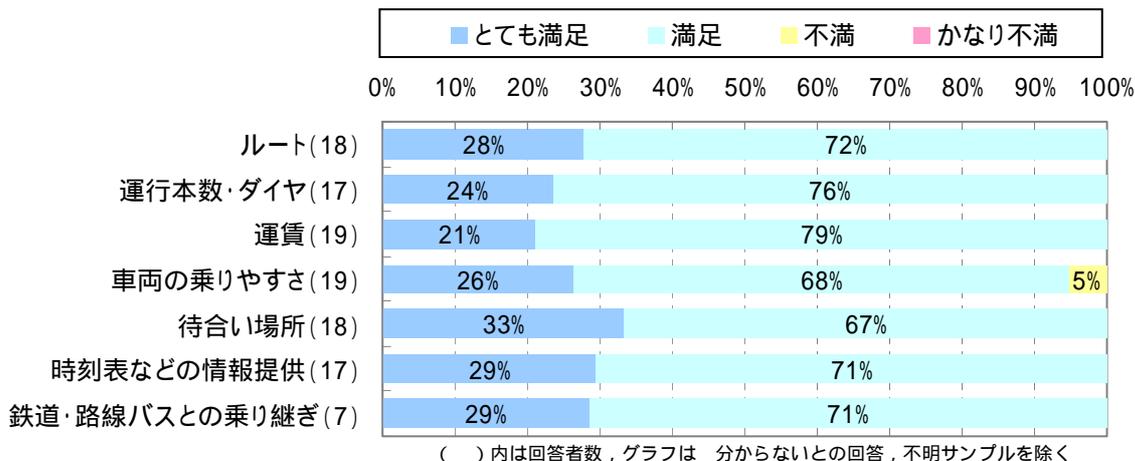
(5) 満足度

- 「エリア1」では、「鉄道・路線バスとの乗り継ぎ」に対する満足度が低く、「不満」が約5割、「かなり不満」が約1割となっています。
- その他の項目に対する満足度は非常に高く、9割以上の方が満足しておられるようです。

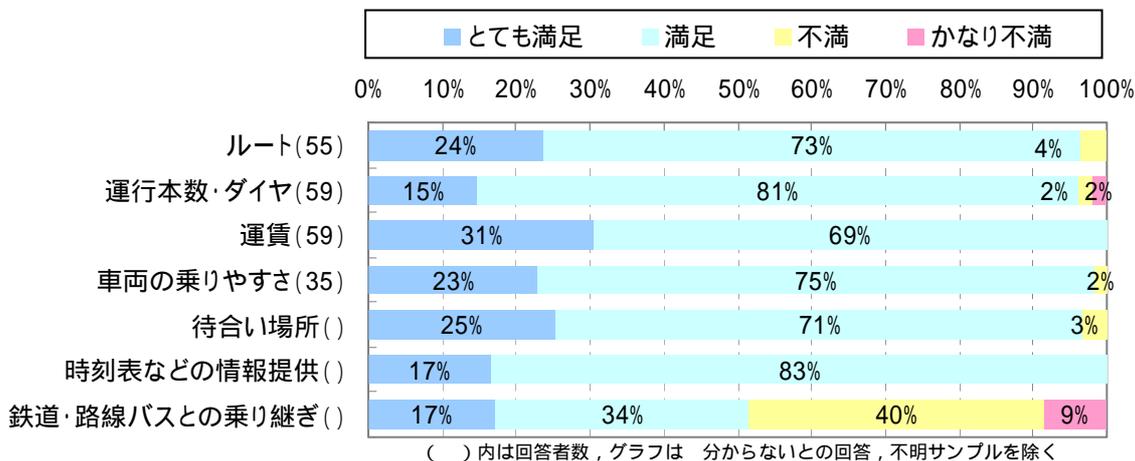
エリア1



エリア2



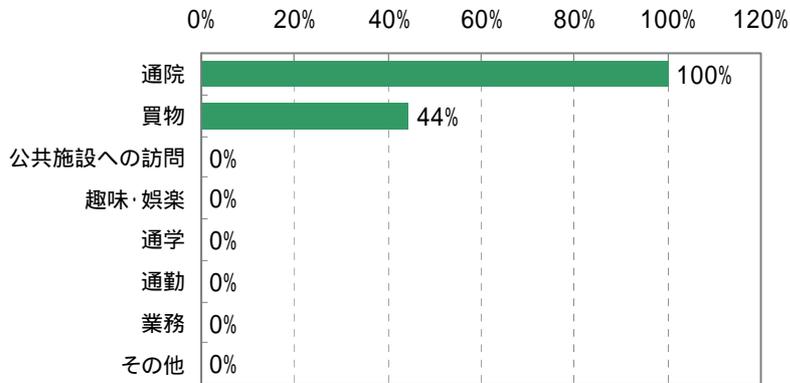
総計



2.6. 市民タクシーの利用実態(市民タクシー利用者アンケート結果より)

(1) 主な利用目的

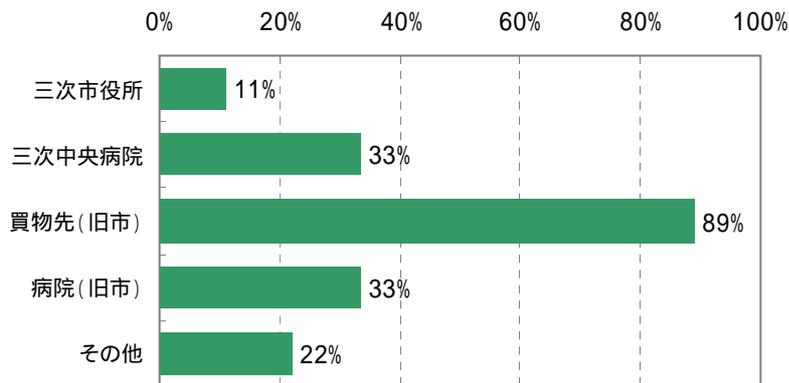
- 全ての方が「通院」目的で利用されており、「買物」でも約4割の方が利用されています。



複数回答(あてはまるもの全て) 回答者数:9
グラフは不明サンプルを除く

(2) 主な行き先

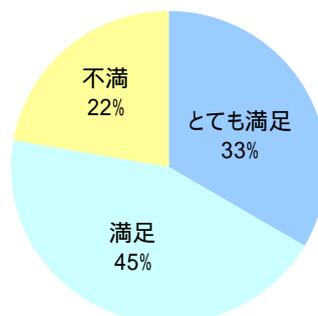
- 三次中央病院や市街地の病院, 市街地の買物先への割合が非常に高くなっています。



複数回答(あてはまるもの全て) 回答者数:9
グラフは不明サンプルを除く

(3) 利用の頻度

- 約8割が, 現在の市民タクシー制度に満足しています。

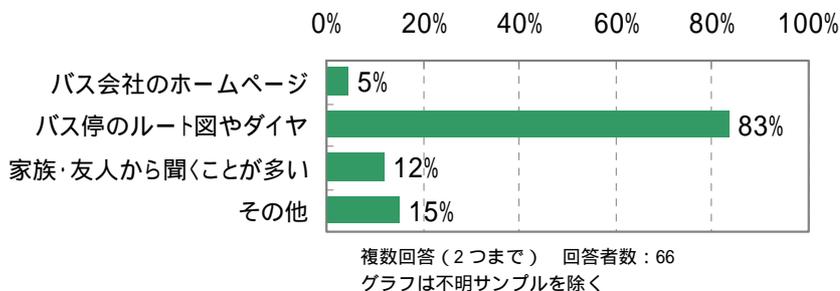


(サンプル数:9)
不明サンプルは除く

2.7. 公共交通の情報確認の方法 (利用者アンケート調査結果より)

(1) 路線バス利用者

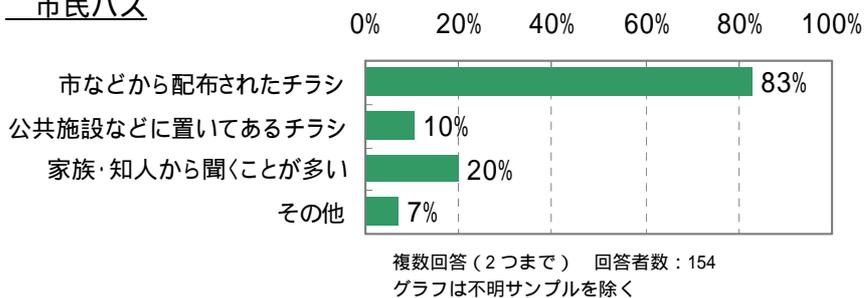
- 利用者の約8割は、ルート図やダイヤ等を「バス停」で確認しています。



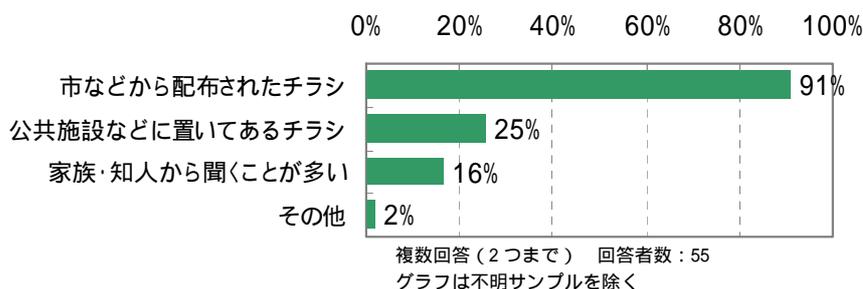
(2) 市民バス, ふれあいタクシーみらさか (デマンド型バス) 利用者

- 大半の利用者が、「市などから配布されたチラシ」から運行関連の情報を入手しています。

市民バス



ふれあいタクシーみらさか

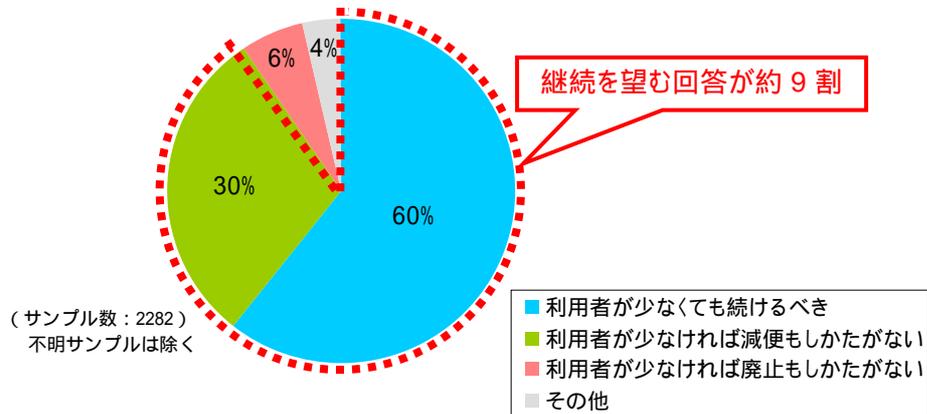


2.8. 公共交通整備に対する意向

(1) 市民の意向（市民アンケート調査結果より）

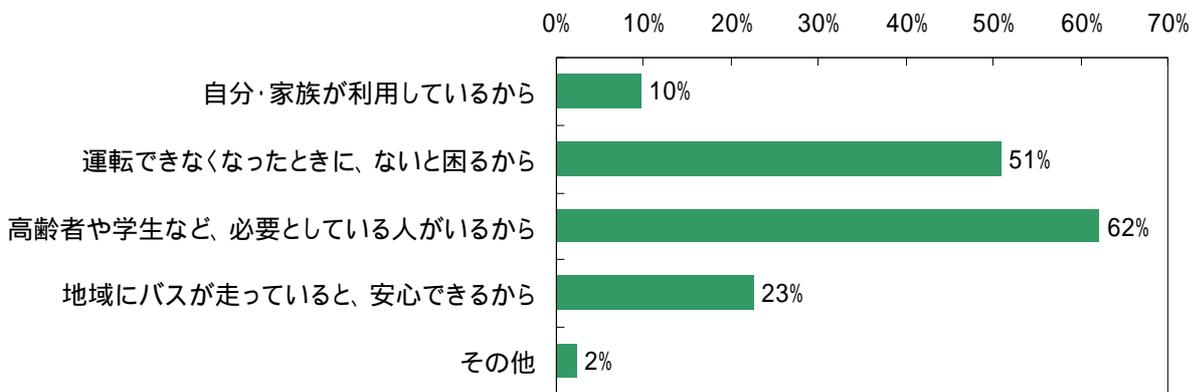
公共交通維持の意向について

- 「利用者が少なくても続けるべき」との回答が約6割と過半数を占めており、「減便」を含めた維持と合わせると、約9割が公共交通の継続を求めています。



公共交通の維持が必要な理由について

- 維持を求める理由として最も多い回答は「高齢者や学生など、必要としている人がいるから」であり、自分のみならず、交通弱者のために必要と考える人が多くなっています。
- 「運転できなくなったときに、ないと困るから」の回答も多くなっています。

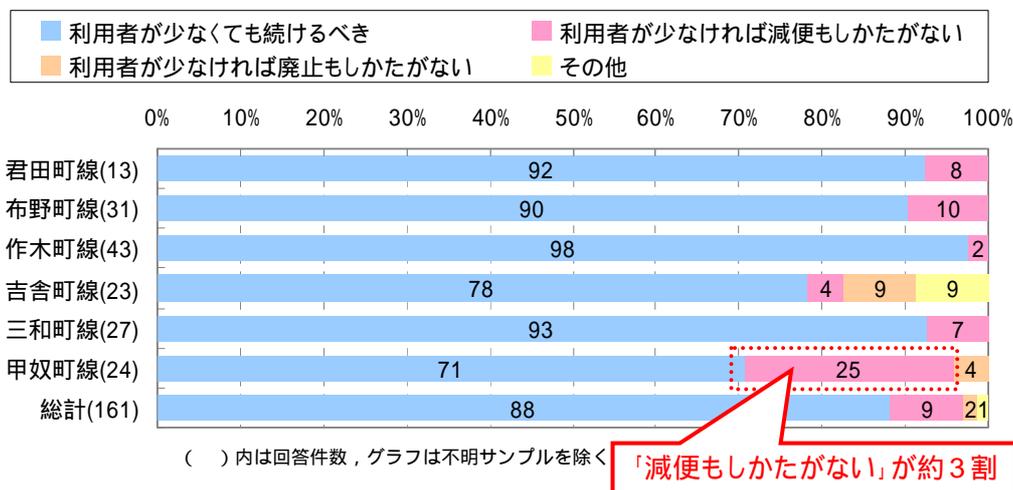


複数回答（2つまで） 回答者数：2215
グラフは不明サンプルを除く

(2) 市民バス利用者の意向(市民バス利用者アンケート調査結果より)

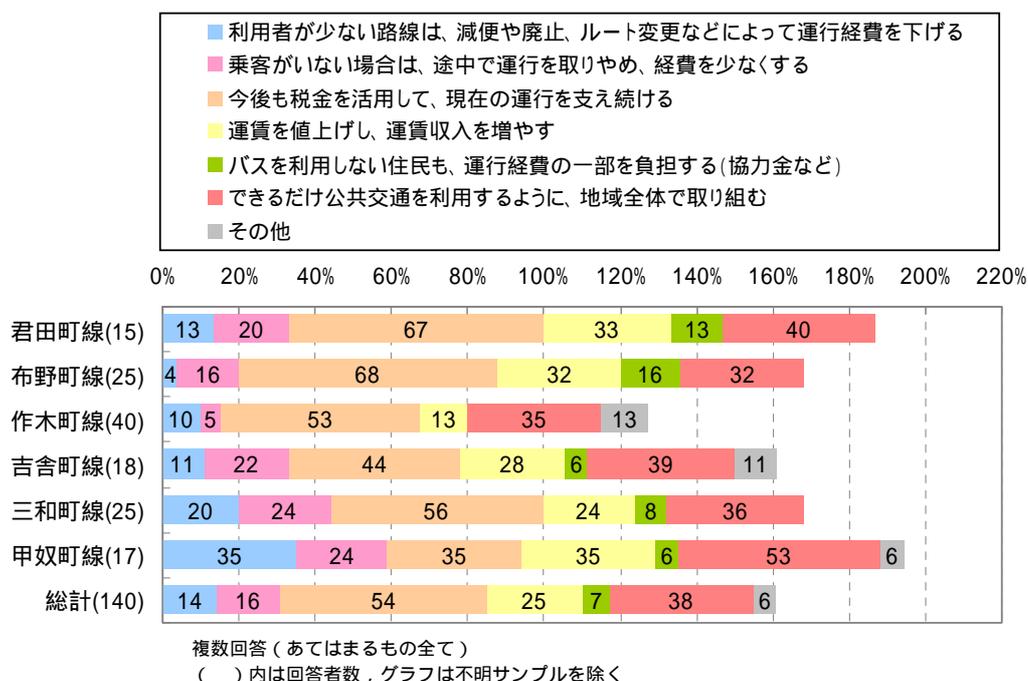
公共交通維持の意向について

- 「利用者が少なくても続けるべき」との回答が約9割を占めており、「減便」を含めた維持と合わせると、ほぼ全ての利用者が公共交通の継続を求めています。
- 路線別では、特に甲奴町線で「利用者が少なければ減便もしかたがない」の回答が多く、約3割を占めています。



公共交通維持に有効な方法について

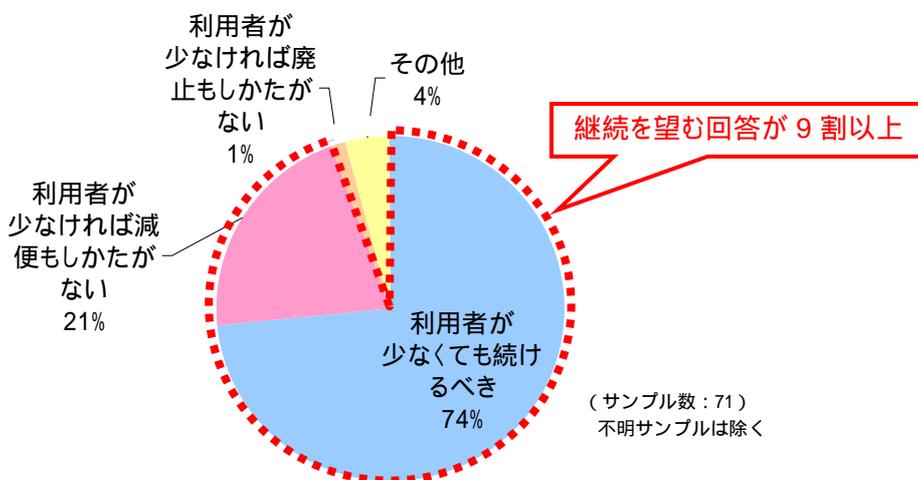
- 全体では、「今後も税金を活用して、現在の運行を支え続ける」が最も多く、5割以上を占めています。次いで、「できるだけ公共交通を利用するように、地域全体で取り組む」が約4割と、地域で利用促進に取り組む意識が高い結果になっています。



(3) 路線バス利用者の意向(路線バス利用者アンケート調査結果より)

公共交通維持の意向について

- 「利用者が少なくても続けるべき」との回答が約7割を占めており、「減便」を含めた維持と合わせると、ほぼ全ての利用者が公共交通の継続を求めています。



公共交通維持に有効な方法について

- 「できるだけ公共交通を利用するように、地域全体で取り組む」が約6割以上と、地域で利用促進に取り組む意識が高い結果になっています。
- 次いで「今後も税金を活用して、現在の運行を支え続ける」が約4割を占めます。

